

第5回(平成20年度第2回) ISO/SR 事例WG 議事録

1. 開催日時 : 平成20年10月28日(火) 14:00 ~ 16:00
2. 開催場所 : 砂防会館 本館3階会議室 筑後
3. 出席者 : 【敬称略・五十音順】 出席者(○)、代理(△) 欠席者(×)
主 査 : 田中 宏司(東京交通短期大学) ×
委 員 : 青木 修三(環境経営学会) ○、青木 健(連合)△(代理:仲田)、倉津 一壽(東京商工会議所)○、黒田 かをり(CSO ネットワーク)×、渋江 弘幸(溪仁会)○、島田 京子(日本女子大学)○、土庫 澄子(内閣府)×、富田 秀実(ソニー)○、古谷 由紀子(日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会)×、牧 葉子(川崎市)×、松本 秀一(環境省)○
関係者 : 濱坂 隆○、宮澤 武明○(以上経産省)
岸本 幸子○、由良 聡○(以上パブリックリソースセンター)
事務局 : 岡本 裕○、佐藤 恭子○、櫻井 三穂子○、(以上 JSA 記)

4. 議事次第 :

1. 議事及び資料の確認
2. 事例調査中間報告について(報告及び意見交換)
3. 事例シンポジウムについて(報告及び意見交換)
4. その他

5. 資 料 :

- | | |
|-----------|-------------------|
| WG II-5-1 | 第4回 SR 事例 WG 議事録 |
| WG II-5-2 | 有識者ヒアリングの結果概要 |
| WG II-5-3 | 中小企業ヒアリング候補企業抽出作業 |
| WG II-5-4 | ヒアリング項目(案) |
| WG II-5-5 | 中小企業ヒアリング候補企業(案) |
| WG II-5-6 | 中小企業 SR 事例リスト |
| WG II-5-7 | 事例シンポジウム概要(案) |

参考資料 : ISO 26000 規格開発最新状況

6. 議事概要

*今回の議事進行は事務局が田中主査の代行を行うことについて、委員の承認のもと、議事を進めた。

事務局から委員交代の紹介があった。

- 一 連合 吉野委員から連合 青木委員へ交代(仲田様が代理出席)

6.1 議事及び資料の確認

事務局から資料確認を行った。

また、追加議題は無く議事次第案に則って議事を進行することとなった。

6.2 事例調査中間報告について（報告及び意見交換）

報告者：パブリックリソースセンター 岸本氏

まず、事例調査の概要説明があった後、資料 WGⅡ-5-2 にしたがって、有識者ヒアリング調査の結果報告があった。（現時点では各項目（issue）別の有識者ヒアリングは未だ行っていないので各項目別の調査項目は除く。）次に、資料 WGⅡ-5-3 に従って、資料 WGⅡ-5-4、5-5、5-6 を使いながら、中小企業ヒアリング候補企業抽出についての説明があり、その後意見交換があった。（意見交換は別紙参照）

意見交換の結果、

- 調査企業のバランスを考え、機会があれば金融機関を含めるということで資料 5-5 の候補 30 社を含めてヒアリングをすること。
- 資料 5-4 については、分野別・攻めの SR・地域住民との関わり・コスト関係・従業員満足度という観点を踏まえて修正をすること。

を踏まえて、5-4、5-5 は承認された。

今後は 11 月に事例調査を実施して年内には調査を終了する予定である。なお、各項目別の有識者ヒアリングは並行して行う。

6.3 事例シンポジウムについて（資料 WGⅡ-5-7）

報告者：パブリックリソースセンター 岸本氏

事務局より、昨年と同じように今年度もシンポジウムを開催するとの連絡があり、続いて資料 WGⅡ-5-7 に従って、パブリックリソースセンター岸本氏より今年度開催の事例シンポジウムについて説明があり、その後意見交換があった。（意見交換は別紙参照）

パネラー及びコーディネーターは未だ決まっていないが、この WG メンバーに協力をお願いする必要があるのでよろしくお願いしたいとの事務局からの発言があった。

今後は、シンポジウムの詳細が決まり、本日の意見を反映したプログラム案について、メールにて WG メンバー間で意見交換をしていくこととなった。また、必要に応じて WG を開催する。遅くとも 12 月初旬にはパネラーを含めてプログラムを決めていくこととなった。

6.4 その他

- 事務局から 2008 年 9 月にチリ サンチャゴで開催された ISO/SR 総会報告及び ISO26000 の規格開発最新状況の説明があった。

- 今後シンポジウム開催前に必要に応じて WG を開催したい。

以上

別紙：第5回 SR 事例 WG 主な意見交換

➤ 意見交換1：ヒアリングをしていく上での質問項目について（資料WGⅡ5-5）。

- 特定の SR 活動に絞り込んで調査する理由は何があるか。御社にとって又はその業種にとって SR とは何ですかという質問はいかがか。
→いきなり SR では身構えられてしまうのでないかと懸念。意識していないものを拾い上げる方向で考えている。
- 業界の特性を押さえた上で質問するとよい。ISO26000 との関係としては、ISO26000 がどのようなインパクトを与えるかを聞いてもよいのではないか。
- 取引条件になると困るのではないか。
- ISO26000 だけではなく、どのような SR を実行しているかということが求められてくるのではないか。
- コスト・時間をかけずに実施している例があればよい事例になるのではないか。
- 個社として残る課題を聞いてみるのがよいのでは。前向きな部分とサプライチェーンとしてやっている部分があるが、積極的な部分を大いに評価すべきという姿勢はあってもよいと考える。受身よりも攻めの SR をどうしているかを聞くのがよい。
- 事例整理として、ステークホルダーとの対話又は事業展開の中で優先順位付けをするのはやりやすいが、ISO26000 全体をカバーするのは難しい。
- Q：本業における社会的事業の展開は除くとはどういうことか。
A：福祉タクシーのように、もともと社会的事業を目的としている会社は除いている。
- 立ち上げる段階のコストと始めた後の維持をしていくコストについて、コストパフォーマンス的な形で聞けたら聞いてみればよいのではないか。可能であればコストパフォーマンスについても聞いてみるのがよいのではないか。
- 従業員がどのように受け止めているのかを聞いてみるのがよいのでは。

➤ 意見交換2：ヒアリング候補企業について（資料WGⅡ5-5）

- 中小金融機関でも SR をやっているところはある。面白い事例があれば取り上げてほしい。
- BCP を特徴としている企業についてはサプライチェーンとの繋がりということで調査候補企業として取り入れる。
- ステークホルダーエンゲージメントを特徴的にしている企業はあるか。

➤ 意見交換3：今年度開催のシンポジウムについて（資料WGⅡ5-7）

- できるだけ、動画や映像を使って事例を紹介してもらいたい。
- 事例紹介の前に中小企業にとって SR に取り組む意義・中小企業向けのメッセージを頭だしすると聞きやすく、これから SR に取り組む人にも有用である。また、主催や共催団体とし

- てシンポジウムの開催にあたって、東商や中小企業庁の関与があるとよいのではないかと。
- ISO26000 に関する最新動向説明というのは、タイトルを例えば「中小企業と SR」などと中小企業向けにして、ISO26000 を前面ではなく中に入れるとよい。また、事例 WG についての説明をこの後に含めるのがいいのではないかと。事例紹介は業種又は対象が違うほうが好ましい。
 - パネルディスカッション+質疑応答を一緒にしたほうがやりやすいのではないかと。
 - 事例紹介は多くても 20 分にして、質疑応答に時間を割いたほうがよいのではないかと。

以上